

2024年度安全規約

2024年度 安全 竹内啓太

● はじめに

以下は定められた海上活動原則をもとに、2024年度ヨット部の運営、技量などの状況を考慮して、具体的な練習基準を定めたものである。

・制定メンバー

2024年度主将	石橋凌我
2024年度副将	福田滉太
2024年度スナイプ級バイス	笹和樹
2024年度470級バイス	金谷駿太郎

● 守るべき優先順位

人命 > レスキュー > ヨット > その他マークなど

この優先順位は東工大に限らず、適用される（東工大のヨットよりも他大学の人名のほうが優先である）。

マークの回収は人命、レスキュー、ヨットの安全が十分に確保された場合でよく、そうでない場合には放棄することもあり得る。

● レスキューでのコミュニケーションの取り方

レスキュー上では会話での意思疎通が困難となる状況が起こりうるので、乗員は発声とともに以下のジェスチャーによってドライバーに意思伝達を図るものとする。

- 変針 変針して欲しい側に手のひらを向けてあおぐ
- 停止 ドライバーの方を向いて手のひらをドライバー側に向ける
- 障害物 障害物の方向を指差す
- やむをえない事由でヨットから離れる際は、レスキュー艇の乗員がヨットの状況がわかるように見ていなければならない。

● 強風時について

➢ 定義

以下に示す状況を強風と定義する。

- 平均風速8m/s以上
- 最大風速12m/s以上
- 西風平均風速6m/s以上が吹いているとき

➢ 練習制限

強風時、また大雨、霧、雪による視界不良のとき(葉山新港と要相談)は練習制限を設ける。具体的な練習制限としては、レスキュー艇1杯につき練習艇は3杯を限度とし、レスキューの人員として3人以上(船長以外に上級生1人以上)、ヨットの人員は上級生1人以上が乗っていないといけないものとする。ただし上級生はヨット部所属から1年以上経過したものを指す。

また、以下の状況のときは出艇禁止とする。

- 葉山港が赤旗を掲揚しているとき
 - 降雷時
 - 最高気温0℃以下のとき
 - その他気象庁より警報が発せられているとき(大雨、洪水警報は除く)
- これらの気象条件に関する規定は出艇1時間前の予報、警報によるものとする。

➤ 吹きあがり

赤旗が掲揚されると予想される時間の1時間前には、直ちに着艇できるようにしておく。具体的には以下のような対応をする。

- マークを上げておき、ヨットの近くにいる
- 有事の際にハーバーにすみやかに帰着できる距離で練習する
- すみやかに着艇できるような人員配置にしておく
- ヨットが着艇する前に、最低一人は陸に待機させる

➤ ゲリラ豪雨

天気が不安定な時期に、前日の予報でゲリラ豪雨が懸念される日には以下の対応をとる。

- 逐一雨雲レーダーを確認する
- 着艇が間に合いそうな場合には、直ちに着底させる
- 着艇が間に合わなさそうな場合には、岸壁や奈島から離れた海面にて待機する
- レスキューは常にヨット、人員の安全を確認する

※追記

- 葉山港が赤旗を掲揚していても、葉山新港に外部コーチによる誓約書の提出があれば出艇してもよいものとする。
→コーチングの際には赤旗でも出艇することがあるため。
- 雷注意報が発令されているときは、予報や葉山新港との相談を踏まえた上で出艇してもよいが降雷予報時には着艇していなければならない。ただし、予報時間にかかわらず常に空や雲の状態に気をつけ、各バイスの判断により部員の身の安全を守ることを第一に考え練習を行うものとする。
→雷注意報は発令されているが、降雷はまだ認められてない場合について追記。一切の練習を禁止することはしないが、常に安全に気をつけて練習を行う。

● 船長

船舶免許発行後一年経過し、かつ有効である、かつ年2回行われるレスキュー訓練受け合格している者のみとする。レスキュー訓練に合格していない者は、船長をしてはならない。乗員は必ず船長を確定させ、その者はワッペンをつけなければならない。船長となったものは運転手如何に依らず一切の責任を負う。船長は、練習海面の状態を把握しヨットが安全に航行できるように努め、沈艇や事故発生時に人命を優先したレスキュー活動に従事できなければならない。船長資格のない乗員のみでのレスキュー活動は認めない。

● 運転手

運転手は体調の優れたものとし、無理のない運転を心掛ける。また後述する部内レスキュー訓練を修了していないものは原則的に認めない。レスキュー活動の練習、緊急的な状況で船長の許可を得たときのみ認める。この場合乗員はその旨を理解し安全に運航できるようにサポートに努めなければならない。

● レスキュー人員

原則レスキューには船長+1名以上を置くものとする。レスキューの人員配置及びレスキュー1艇あたりの練習艇の数については、各バイスの判断によるものとする。

また、レース・レスキュー故障など平常時と異なる場合においては、練習制限は自己判断のもとに設定・解除するものとする。

ただし以下のすべてを満たす場合にはレスキューに、船長のみでも認める。

- 平均風速5m/s以下、最大風速7m/s以下
- 上記の風速よりも強い風が吹くと予想される一時間前までには、船長のみでのレスキューの状態が継続されないようにする
- ヨット、レスキューの人員すべてが上級生であること
- レスキュー1艇あたりの練習艇は2杯までとする

- レスキュー訓練の内容

○ 第1回レスキュー訓練

- マークに横付け

停止練習、人命救助

- 全速力を出した後、緊急回避

船の特性の理解

- 後進

後進での舵の利き方の確認

- 蛇行、安全確認

視界確保の練習

- 法定備品の保管場所確認、使用動作確認動作

トラブル時の対処

- 曳航動作の確認(免許発効1年以内の者のみ)

迅速な曳航のため

○ 第2回レスキュー訓練

- マークに横付け

停止練習、人命救助

- 上マークを打つ

マークを正確に打つ練習

- レスキューに横付け

エンジンの止まったレスキューに横付けする練習

※レスキュー訓練に不合格だった者、また受けていない者は、練習の空き時間に再試、追試の時間を設け、全部員が合格するまで行う。

→今まで不合格者、未受験者についてのフォローがおざなりになっていたため、そのような現状を改善し、練習効率向上やレスキュー能力向上のためには全員合格が必要であると考えたため。

- 安全座学会の内容

○ 第1回安全座学会

海上活動原則、安全規約の読み合わせ、曳航の方法の説明、レスキューマニュアルの読み合わせを行う。

○ 第2回安全座学会

注意すべき海域の共有、海上でヨットのトラブルがあった場合のレスキューの対処法の説明、新港からのレスキューボートの要請方法の説明を行う。

- 事故時の対応、連絡先





03-5734-2145

⇒

外部連絡先(葉山マリーナ) 046-875-2670
消防・救急 119
警察 110
葉山ヨットサービス 0468-75-2988

葉山港 046-875-1504
葉山警察署 046-876-0110
タクシー[京急葉山交通(株)] 046-877-1280
救急病院[逗葉地域医療センター] 046-873-7752
(緊急)横須賀海上保安部 046-861-4999
第三管区海上保安本部 118

外部連絡の際の
注意事項

1	所属	東京工業大学ヨット部の〇〇と申します		
2	要件	本日〇〇について連絡差し上げました		
3	事故の内容について	1	発生時刻	
		2	発生場所	
		3	被害(何人、怪我の程度)	
		4	取り急ぎ連絡のみ差し上げました	
④	結びのパターン	A	再度、監督(主将の)〇〇より連絡差し上げます	
		B	至急電話番号〇〇までお願いいたします	